

みずほCustomer Desk Report 2022/12/20 号 (As of 2022/12/19)

市場営業部 為替営業第二チーム

【昨日の市況概要】				公示仲値	136.27
	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY	GBP/USD	AUD/USD
TKY 9:00AM	136.56	1.0585	144.53	1.2158	0.6690
SYD-NY High	137.15	1.0658	145.47	1.2241	0.6732
SYD-NY Low	135.76	1.0576	143.89	1.2120	0.6684
NY 5:00 PM	136.92	1.0607	145.28	1.2146	0.6699
	終値	(前日比)		終値	(前日比)
NY DOW	32,757.54	▲ 162.92	日本2年債	▲0.0100%	0.0100%
NASDAQ	10,546.03	▲ 159.38	日本10年債	0.2500%	0.0000%
S&P	3,817.66	▲ 34.70	米国2年債	4.2620%	0.0817%
日経平均	27,237.64	▲ 289.48	米国5年債	3.7177%	0.0969%
TOPIX	1,935.41	▲ 14.80	米国10年債	3.5883%	0.1024%
シゴ日経先物	27,195.00	▲ 105.00	独10年債	2.1975%	0.0420%
ロンドンFT	7,361.31	29.19	英10年債	3.4975%	0.1715%
DAX	13,942.87	49.80	豪10年債	3.5260%	0.0640%
ハンセン指数	19,352.81	▲ 97.86	USDJPY 1M Vol	11.42%	0.55%
上海総合	3,107.12	▲ 60.74	USDJPY 3M Vol	10.85%	0.23%
NY金	1,797.70	▲ 2.50	USDJPY 6M Vol	10.44%	0.07%
WTI	75.38	1.09	USDJPY 1M 25RR	▲0.98%	Yen Call Over
CRB指数	270.56	▲ 0.82	EURJPY 3M Vol	10.36%	0.25%
ドルインデックス	104.72	0.02	EURJPY 6M Vol	10.23%	0.07%

東京	週末の「政府と日銀が共同声明を改定する方針を固めた」とのヘッドラインに、週明けは円高方向にギャップオープンし、一時135.80をつける。徐々に値を戻し、東京時間のドル円は136.56レベルでオープン後、日銀金融政策決定会合への警戒感からかじりじりと下落する展開。135.78まで下値を更新する中、官房長官から週末の報道を否定する発言があると盛り返す場面も見られたものの、136円台前半で上値の重い状況は変わらず。引けにかけてやや値を下げ、135.98レベルで海外時間に渡った。
ロンドン	ロンドン市場のドル円は、135.98レベルでオープン。立ち上がりは全般にドル売りが先行するもドル円はアジア時間安値近辺の135.76円まで売られるにとどまる。程なく米金利の上昇とともにドルが買い戻されるとドル円は136.55円まで反発し136.39レベルでNYに渡った。
ニューヨーク	週末に岸田政権が政府・日銀による共同声明を改定し、物価上昇目標を柔軟化すると一部で報道される中、週明けのドル円は円買いが先行し、一時135.78まで下落。しかし、松野官房長官が先述の報道を巡り、そのような方針を固めた事実はないと述べたことから円買いが巻き戻され、136円台半ばまで反発。その後は136円ちょうど付近でもみ合いとなるが、早朝にかけて米金利上昇とともに136.55まで買い戻され、136.39レベルでNYオープン。朝方は海外時間の流れを引き継ぎ、米金利上昇を横目に137.15まで上昇。買い一巡後、136.70付近まで反落。終盤は手掛かり材料も乏しく、方向感無い値動きとなり、結局、136.92レベルでクロス。一方、海外市場のユーロドルは1.0600を挟んだレンジで推移するが、独12月IFO景況感指数が予想を上回るとユーロ買いで反応し、一時1.0658まで上昇。しかし、滞空時間は短く、早朝には1.0600付近まで戻し、1.0606レベルでNYオープン。朝方はドル買いが先行し、1.0576まで下押しするも、一巡後は1.0630まで反発上昇。午後は上値重い推移となり、再び1.0600近辺までじりじりと下落後、1.0607レベルでクロス。

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償のみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

担当: 木村・多川

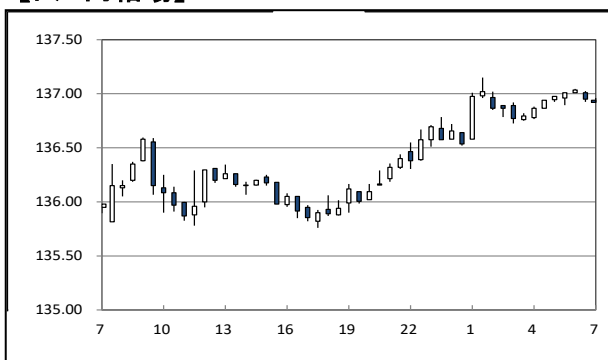
【昨日の指標等】

Date	Time	独	IFO(企業景況感/現況/期待)指数	12月	結果	予想
12月19日	18:00	独	IFO(企業景況感/現況/期待)指数	12月	88.6/94.4/83.2	87.5/93.5/82.0

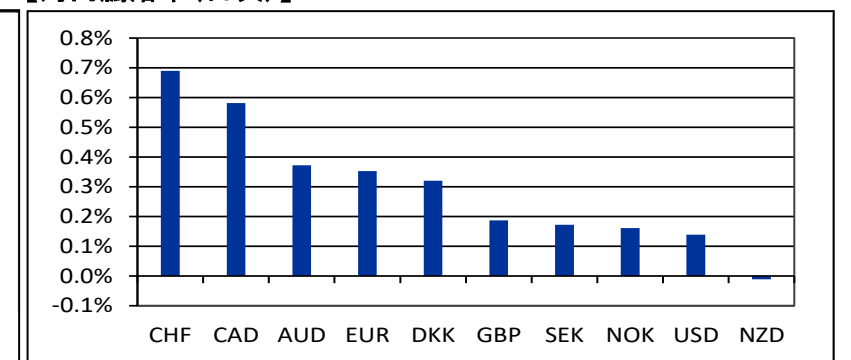
【本日の予定】

Date	Time	日	日銀 金融政策決定会合	20-Dec	予想	前回
12月20日	15:30	日	黒田日銀総裁 会見	-	-	-
	22:30	米	住宅着工件数	11月	1400k	1425k
	22:30	米	建設許可件数	11月	1480k	1512k
12月21日	00:00	欧	消費者信頼感・速報	12月	-22.0	-23.9

【ドル円相場】



【対円騰落率(日次)】



【予想レンジ】

通貨ペア	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY
想定レンジ	135.80-138.50	1.0500-1.0700	143.90-146.60

【マーケット・インプレッション】

昨日のドル円は東京時間に下落するも海外時間で反発。週末に岸田政権が政府と日銀による共同声明を改定し、物価上昇目標の柔軟化が意識され東京時間に135円後半まで円高が進行するも、松野官房長官がその報道を否定したことで反発し、米金利上昇も相まって137円台まで浮上し、136.92レベルでのクローズとなった。今週に入り海外参加者が減少して流動性が低下するなか、本日のドル円は日銀金融政策決定会合を警戒した神経質な値動きを予想。米金利が再上昇の動きを見せている中、金融政策維持の発表に合わせて円売りを試す動きがでる可能性にも注意が必要と考える。